

## 情報経営科

# 2023課題研究 Vol.2

## ～空き家の現状と課題について行政取材～

5月16日（火）有田市多世代交流施設 AGALA にて、有田市役所都市整備課公共建築係の上野山瑞様と経営企画課まちづくり係の宮井夢人様から有田市の空き家の現状と課題、行政としてのビジョンについてお聞きしました。最初に空き家の定義について教わりました。賃貸用住宅、売却用住宅、二次的住宅、その他の住宅があり、一般に空き家と言われる放置されている家屋はその他の住宅になります。有田市の空き家数は2,160戸であり、内訳はその他の住宅1,400戸、賃貸用住宅640,売却用住宅60,二次的住宅50とのことでした。（直近の平成30年住宅・土地統計調査より）

有田市の人口は、昭和50年代をピークに減少が続いており、今後も空き家数の増加が懸念されています。有田市では平成30年に「有田市空家等対策計画」を策定し、「所有者への啓発・情報提供」「保安上問題のある空家等の適切な管理の促進」「空家の流通・活用の促進」「連携体制の構築と相談体制の整備」の4項目に重点を置き、総合的な空き家対策に取り組んできたことにより、全国、和歌山県の空き家率が上昇している中、有田市の空き家率は横ばいとなっているとのことです。

有田市のHPから「空き家・空き地バンク」に登録されている物件を閲覧でき、所有者と（市外の）これからの活用に興味を持った方との購入、賃借などの橋渡しのような制度があることも知りました。また矢櫃の「くらしちやる矢櫃」やAGALAのようにリノベーションして利活用している事例も伺いました。持続可能なまちづくりのため、空き家問題の現状と課題に向き合いながら、ポジティブな解決策を考えていきたいと思えます。



古民家施設 AGALA でのヒアリング



市役所の担当者から話をうかがいました